



BOOK REVIEW

中国経済の質の高い成長への道筋に関する分析

範金等著

中国社会科学出版社，2020年8月出版，528頁



アジア成長研究所研究部長・教授 戴 二彪

1. 内容構成

本書は、南京林業大学経済管理学院の範金（FAN Jin）教授（中国投入産出学会常務理事，中国マクロ経済管理教育学会常務理事，元 AGI 客員研究員）が率いる研究チームの共著で，2018年8月に中国社会科学出版社から出版された。中国語の書名は、『促進中国経済高質量増長的路径分析』となっているが，この書評では、『中国経済の質の高い成長への道筋に関する分析』と和訳する。528頁にもおよぶ本書の内容構成は，次のようになっている。

概要・序文1・序文2

第一章 インTRODクシヨン

第二章 先行研究のレビュー

第三章 中国の経済成長の進化メカニズムとモデルチェンジの動向

第四章 中国の経済成長の質に関する評価方法の比較研究

第五章 「新常态」下の中国経済成長の質の変化：GDP 計算法の視点に基づく分析

第六章 「新常态」下の中国経済成長の質の変化：全要素生産性の視点に基づく分析

第七章 「新常态」下の中国経済成長の質の変化：付加価値率の視点に基づく分析

第八章 海外諸国（地域）の転換期における経済成長の質の変化からの示唆

第九章 「新常态」下の中国経済の質の高い成長の連関分析とシナリオ予測

第十章 新時代の中国における経済成長の質の向上のための政策提言

付録1 建国（1949年）以来の中国の全要素生産性の推移とその構成分解

付録2 長江デルタ地域都市群の経済発展の質の変化趨勢と政策提言

付録3 「第14次五ヵ年計画」期におけるT市の質の高い発展の主要目標と指標体系の研究

参考文献

あとがき

2. 本書の背景

1970年代末に改革開放政策を実施して以来、中国は年平均伸び率9.5%前後のGDP成長を実現し、2010年以降世界第2位の経済大国に躍進した。このような急成長は世界の注目を集め、中国の「奇跡」とまで表現されている。東アジアの日本、韓国、台湾もかなり長い高度成長期を経験したことがあるが、世界1の人口大国中国がこのような経済成果を取ることができたことは、奇跡とはいわないまでも、世界への影響はより深遠である。

しかし、中国の急速な経済成長過程において、多くの問題も生じており、その中で最も注目されているのは、次のことが挙げられる。

- ①経済成長は主に資本、労働などの生産要素投入（特に資本投入）に依存している。諸要素の利用効率を反映する全要素生産性（Total Factor Productivity：TFP）の上昇による寄与度は相対的に低い。労働年齢人口の減少と投資収益率の低下に伴い、経済成長率の下振れリスクが増大する傾向にある。
- ②GDP指標を中心とした人事評価制度の下で、各級政府（特に地方政府）は経済活動に直接介入し、投資を拡大しようとするインセンティブが強く、各地のGDPに占める固定資産投資の割合は常に40%前後に達している。このような過剰投資は、各地のインフラ整備を著しく促進したと同時に、地方財政の土地譲渡収入への依存を強化させ、地価や住宅価格の高騰を直接招き、都市住民の消費需要と消費能力を低下させた。このほか、経済活動における政府の過度な介入は、競争規則の曖昧化をもたらし、知的財産権・公平な競争、法治に対する重視を弱め、市場経済システムの発展を阻害している。
- ③大規模な資本投入の駆動で、中国は生産能力が拡大し続き、世界1の「工場」（生産大国）となっている。国内需要が相対的に不足しているため、海外市場向けの輸出貿易は中国経済の健全な運営と高度成長に重要な役割を果たしてきた。一方、貿易関係の緊密化によって形成されたグローバルサプライチェーンにおいては、中国製輸出品の海外コア技術やハイエンド部品に対する輸入依存度が高まっている。そのなかで、輸出・輸入ともに米国をはじめとする先進国への依存度が際立っている。これらの主要市場国の経済動向と対中貿易政策の変化、特に近年米国の対中戦略の調整は、中国の対外貿易と経済全体に深刻な影響を与えている。
- ④地域間、都市と農村間、世帯間に、かなり大きな所得格差あるいは資産格差が存在している。こうした格差の一部は、経済主体の努力の差によるものであり、合理性がある。しかし、制度の偏りや置かれた環境の違いに由来する機会の不公平による部分もかなり大きい。例えば、都市と農村を分断する戸籍制度、特定地区（産業）の過度な優遇政策、腐敗行為（権力によるレントシーキング、インサイド取引など）がもたらした所得や資産の格差は、調和のとれた社会の構築へのマイナス影響が深刻で、是正しなければならない。
- ⑤環境保護と省エネ分野の技術レベルはまだ比較的到低く、関連意識も比較的に弱い。それに巨大な産業規模を加えて、中国は世界最大のエネルギー・資源消費大国と温室効果ガス排出大国になっている。環境汚染はすでに国民生活の質に深刻な影響を与えている。

要するに、中国の急速な経済成長は確かに世界を驚かせているが、成長の質の面では憂慮すべき点が少なくない。上述した問題の実際状況、発生原因およびその経済的、社会的、政治的影響について、中国国内外の経済学者や関連分野の研究者はすでに多くの実証研究を行っており、筆者が所属するアジア成長研究所（前身は国際東アジア研究センター）も、国際共同研究プロジェクトを実施したことがあり、現在も重要な研究テーマとしている。

中国内外の学术界と政策研究部門の研究と提言によって、上述した問題は徐々に中国政府に重視されている。もし従来の「成功モデル」を調整せず、非現実的な高速経済成長を追求し続ければ、目標を実現できないだけでなく、期待に反し、経済危機や社会混乱が発生するかもしれないと認識されているであろう。

中国経済の行方と今後選択すべき発展戦略をめぐって、依然様々な見解が存在しているなか、2012年以来、中国経済には「新常态」（ニューノーマル）と呼ばれるいくつかの変化が現れている。これらの変化は主に、① GDP 成長率は10%前後の高成長から6~8%の中高速成長に低下した、②産業構造（GDP 構成）のうち、情報通信関連サービス業をはじめとするサービス業の割合が上昇している。製造業の割合が下がっているが、ハイテク製造業の割合は上昇している、③イノベーション駆動型の経済成長モデルは各級政府に重視され始めている、④政府幹部の人事評価システムにおいて、環境保護の業績がますます重要視されている、などが挙げられる。これらの変化は中国内外の市場環境の変化の影響によるものだけでなく、中国政府が近年推進している「質の高い成長（発展）への戦略的調整」とも密接に関連している。

このような重大な戦略調整の初期模索段階において、質の高い成長はどのように定義・評価されているか？戦略調整は中国経済の成長パターン、経済構造、成長動力にどのような変化をもたらしたのか？戦略調整の結果は質の高い成長の方向と一致しているのか？調整に伴うマクロ経済管理対策の効果はどのように評価すべきか？次の段階の発展戦略を合理的に策定するためには、これらの問題を早急に検証・分析しなければならない。このような背景の下で、範金教授らの新著『中国経済の質の高い成長への道筋に関する分析』は、タイミング良く出版された。

3. 本書の特色

範金教授は数学専攻出身で、博士課程とポストドクターの研究期間に、中国科学院数学とシステム科学研究院の陳錫康教授（中国投入産出学会名誉理事長）と中国社会科学院数量経済と技術経済研究所所長の汪同三教授など、中国を代表する数理経済学者らの指導を受けた。国内のマクロ政策共同研究や米国および日本の研究機構との学術交流に参加することを通じて、政策研究と学術研究のどちらにおいても高度な能力を身に付けている。彼は2006年度に国際東アジア研究センター（アジア成長研究所の前身）の客員研究員として招聘され、当研究所で共同研究に従事したことがある。それ以来、私と同僚たちは彼との交流が続いており、いろいろ刺激を受けた。

本書は範教授が率いる課題チームが2019年夏に完成した中国「国家社会科学基金重点プロジェクト：新常态下の中国経済成長の質の進化趨勢と対策研究」の最終研究報告書を基に加筆したものであり、以下の鮮明な特色があると思われる。

- ①研究課題の選択が非常にタイムリーで、研究の目的が明確である：本書では、改革開放政策が始まった1970年代末以降の中国经济成長を3つの段階、すなわち①1978～2011年（旧常態期）、②2012～17年（新常态期あるいは新常态第1段階）、③2018～50年（新時代あるいは新常态第2段階）に分けている。著者らは、中国の経済成長過程における「速度ばかりを重視し、質を軽視する」という問題を重視し、最初の2段階の経済成長の質およびその変化要因を多視点で客観的に評価・分析することを通じて、新時代の質の高い経済成長を実現するための道筋設計の理論と国内外の参考経験を提供しようとしている。
- ②考え方が明晰で、各章の関連が緊密である：本書では、上述した研究目的に沿って、まず相当な紙面を用いて質の高い経済成長や質の高い発展などの核心概念の意味と特徴を整理した。そして、先行研究のレビューを通じて、GDP計算、TFP計測、付加価値率計算を中心とする多視点の経済成長の質の計測方法と指標体系を構築した。さらに、これらの多視点の計測方法を用いて改革開放後の中国の経済成長の質の変化と影響要因を詳細に考察したうえで、こうした分析結果およびいくつかの参考対象国の発展経験に基づいて、新時代の質の高い経済成長を促進するための対策を提案している。このような「問題提起－問題解釈－問題解決」型の研究枠組において、各章の関連が大変緊密で、対策の説得力も高い。
- ③研究方法に独創性がある：本書は範金教授の長期的な研究蓄積とその研究チームの最近5年間の研究成果の集大成で、多くの章は既存の研究を丁寧に整理した上で発展したものである。特に著者らが構築した、GDP計算、TFP計測、付加価値率計算を中心とした経済成長の質の計測方法と指標体系は独創性があり、中国の新時代の質の高い経済成長（発展）を推進するためにも、各国（特に発展途上国）の経済成長の質の実証研究を促進するためにも、高い参考価値がある。
- ④研究姿勢と分析結果において信頼性が高い：先進国と発展途上国のいずれにおいても、分析データの質の問題がある。ただし、先進国研究者の論著では、データソースの説明が相対的に詳細であり、読者が検証しやすいことである。一方、発展途上国の研究者はこれをそれほど重視しておらず、研究の信頼性を弱めている。しかし、本書においては、データ・文献の出所などに対する注釈が詳細であり、分析結果の信頼性が高い。
- ⑤内容が豊富で、情報量が多い：本書では中国の異なる時期の経済成長の質を時系列的に考察するとともに、地域間・国際間の比較も重視している。また、相対的に抽象的な数量分析を重視するだけでなく、国内外の実例も精選して紹介している。研究者や政策担当官僚など、さまざまな分野の読者が興味のある内容を見つけることができる。

もちろん、質の高い経済成長という問題は広範囲に及んでおり、評価対象分野や評価方法・指標体系は引き続き調整する余地がある。範金教授がチームを率いてこの研究をさらに推進していくことを強く期待している。

本書はAmazonなどを通じて中国国内外で販売されており、研究者をはじめ、中国经济に関心を持っている方々は、ぜひご一読ください。